



ThreeBond



2021

JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND. 1

RACE REPORT



FUJI SPEEDWAY

HONDA

YOKOHAMA

ROKiT

BANDERO
Premium Tequila

@MAISYKAY

KS Material

NGK
SPARK PLUGS

QMI
beyond the invisible



3M

KAJIMA

Hone
Exceed expectations

MOTUL

Swift

ODYSSEY
RACING

KRS
KTEL RACE SERVICE

WPC

SHIBA LIVING JAPAN
advanced technology products

TONE



リボバンド



2年目の挑戦!

2021年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round1が、4月3日(土)～4日(日)にかけて静岡県富士スピードウェイで開催された。国内トップフォーミュラに昇華して2シーズン目を迎えるThreeBond DragoCORSEは、昨年から引き続きコロンビア出身の女性ドライバー、タチアナ・カルデロン選手を起用して2021年シーズンを戦う。カルデロン選手は3月に鈴鹿サーキットで行われた開幕前合同テストに参加するため来日し、その2週間後に富士スピードウェイで開催された合同テストを経て開幕戦に臨んだ。カルデロン選手は開幕から2ラウンドを終えるまで日本に留まり、2シーズン目に臨む予定でいる。

公式予選

開幕前に行われた富士スピードウェイで開催された合同テストで、カルデロン選手はグリップ不足を訴えタイムが伸び悩み、チームはセッティング面での対応を試みたが、決定的な解決策を見いだせないままレースウィークを迎えざるをえなかった。しかし、開幕戦の4月3日(土)午前中に、快晴の空の下でフリー走行が始まると、カルデロン選手は快調に好タイムを刻み始め、セッションタイムは全体の中団につけた。「特別なことはしていないのですが…、何か条件が噛み合ったからだとしか思えない」と伊与木仁エンジニアは首をひねる。

最終的にカルデロン選手は全18台中13番手のタイムでフリー走行を終えた。昨年、カルデロン選手とチームは最初の目標として「予選Q1突破」を掲げていたが、十分目標に手が届く結果である。ただし、合同テストから課題だったフロントタイヤのウォームアップが不十分である傾向を解決するため、4輪にコンプリートニュータイヤを装着して走行した後、リアタイヤだけを交換してアタックを行うシミュレーションも行ったが期待したほどの結果は得られなかった。

若干の不安が残る中、午後2時40分、A組、B組にグループ分けしたうえで公式予選Q1セッションが始まった。

カルデロン選手はA組でコースイン。ユーズドタイヤを装着して前寄りのブレーキバランスで1ラップを走行してフロントブレーキをウォームアップ、その後、4輪ともコンプリートニュータイヤを装着してタイムアタックを行った。

その結果、カルデロン選手はA組の全9台中6番手につけてQ2セッションへ進出できる上位7番手に食い込み、自身初めてQ1セッションを突破することになった。

余韻に浸るまもなく、続けて午後3時20分から7分間のQ2セッションが始まった。カルデロン選手はコースイン後3周をかけてしっかりタイヤをウォームアップした後、タイムアタックを行った。計測時点では全体の4番手につけたが、最終的には他車のタイムが上回る結果となり、順位はQ2全体12番手となり上位8台に残ることはできなかった。

結果的にスターティンググリッドは11番手と決定したが、カルデロン選手にとってスーパーフォーミュラ参戦自己最高グリッドを獲得する結果となった。

2021年チーム体制

タイトル	氏名
チーム監督	道上 龍
トラックエンジニア	伊与木 仁
データエンジニア	渡邊 信太郎
プロモーションディレクター	足立 守

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#16 野尻 智紀 1'21.173
2	#65 大湯 都史樹 1'21.396
3	#6 笹原 右京 1'21.463
11	#12 タチアナ カルデロン 1'22.584



決勝レース

4月4日(日)、富士スピードウェイは曇天となり、レース中盤を迎える時刻には雨が降り出す可能性が高いという天気予報であった。

決勝レースに先立って午前9時25分から30分間にわたって行われたフリー走行でカルデロン選手は問題を抱え込むこととなっていた。というのも予選で快調だったはずのマシンが、フルタンクにするとグリップ不足の症状を見せ始めたうえ、セッション終盤には左リヤホイールのナットが緩んでスローダウンを余儀なくされたのだ。更に、無線の調子も悪くなりコースを走行中のカルデロン選手とピットとのコミュニケーションが円滑にとれなくなった。また、決勝レースのためスターティンググリッドにつく際に行われるウォームアップ走行では、スタート練習後の周回でレース用タイヤをウォームアップする予定だった。しかし、クラッチミートでエンジンをストールさせてしまったために、予定の周回ができず、十分にタイヤをウォームアップできないままスタートせざるを得ない状況にもなっていた。

様々な不安要素を抱えたまま、午後2時10分、決勝レースのスタートが切られた。タイヤのウォームアップが十分ではなかったこともあってスタート直後の混乱の中、カルデロン選手はポジションを2つ落としてレースを始めた。

その後、レースから脱落する選手、早めのタイヤ交換を行う選手をかわしてポジションを11番手へ戻して周回を重ねた。

チームは、無線での意思疎通がうまくできない中、サインボードでタイヤ交換のためのピットインのタイミングを指示することとし、レースを折り返す20周を過ぎた段階でピットイン指示を出したがカルデロン選手はこれを2周にわたって見落とし、予定よりも3周多く走った24周目、ピットに入ってタイヤ交換を行った後にレースへ復帰した。

その後30周を過ぎる頃から雨が降り始め、雨量が増していく中、ドライタイヤを装着してレースに復帰したカルデロン選手はタイヤのウォームアップに手間取り、その間に後続車の先行を許してポジションを事実上2つ落とすことになった。

その後、前を行く山下健太選手を追い、後続の中山雄一選手を押さえ込む走りに徹し、懸命に挽回を図ったものの、優勝した野尻智紀選手と同一周回、55秒223後方で41週のレースを走りきり13位でチェッカーフラッグを受けた。次戦は、カルデロン選手にとって昨年自身最上位であった、三重県鈴鹿サーキットで4月24日～25日に開催される予定となっている。



HONDA

YOKOHAMA

ROKiT

BANDERO
Premium Tequila

@MAISYKAY

KS Material

NGK
SPARK PLUGS

QMI
beyond the invisible

URC

3M

KAJIMA

Hone
Exceed expectations

MOTUL

Swift

ODYSSEY

KRS
KTEL RACE SERVICE

WPC

SHIBA LINING JAPAN
advanced technology products

TONE

D.B.P

MV
MECHANIC WEAR

リポバンド

NEW ERA

DESCENTE

PATRICK

SULAN
DE CARBON

ドライバー（タチアナ・カルデロン）コメント

予選については、とてもハッピーな結果でしたが、決勝レースについては複雑な心境です。というのも、ポイントを獲得できるチャンスだったからです。ただ、無線に不具合が出たことで混乱してしまい、タイヤ交換後のアウトラップでは、特にフロントタイヤのグリップをなかなか得ることができず、1コーナーで飛び出しそうになってしまうなど時間をロスしてしまいました。レースのペースも悪くはなかったし、ポイント獲得の可能性もあっただけに残念です。でも全体的には悪くはなかったと思います。私たちのパフォーマンスは確実に上がっています。これは私たちにとって非常にポジティブなことだと思います。今の段階で私たちのクルマは路面温度が上がると調子上がる傾向があるので、シーズンが進むにつれてもっと状況は良くなっていくものと期待しています。



監督（道上龍）コメント

今回はタチアナ選手が予選で頑張ってくれました。去年の一年間で日本のサーキットを覚えて今年はさらに上を目指すうえで、その第一歩になりました。天気が怪しくて雨が降るかもという状況の中で、スタートでは少し順位を落としながらも無難に纏めたのですが、作戦が左右する長丁場のレースで無線の不具合は厳しかったです。また、タチアナ選手のペースも急に良くなったり急に悪くなったりバラつきがありました。こういうムラをなくせば、より上位が狙えると思うので、ドライバーの面、クルマの面で次のレースへの課題とします。終盤のペースは、10位に入賞した大嶋選手よりも良かったのでポイントが獲れなかったのは悔しい結果ですが、去年とは違うレベルでレースができていると思います。まずはポイントを獲得するため鈴鹿に臨みたいと思います。



エンジニア（伊与木仁）コメント

決勝のペースは1分24秒台に入ったり1分25秒台になったり、少しバラつきが目立ちました。引いてはいけない、離されてはいけないという大事なところでタイムが出ない傾向が見えました。40周目のストレートで、中嶋一貴選手、山下健太選手、中山雄一選手と4台並んで争う場面がありましたが、あそこはもう少し踏ん張って欲しいところでした。しかし、あの争いで何か学んでくれたとしたら今後が楽しみです。次回、鈴鹿のレースに向けては、合同テストであまりいい結果が残っていないので、どこで何をどう修正するか、考えて臨まなければなりません。



レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	58'30.222
2	64	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	58'31.798
3	5	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	58'33.959
4	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	58'49.458
5	6	笹原右京	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	58'56.703
6	1	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	59'00.112
7	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	59'00.692
8	18	国本雄資	KCMG	59'10.102
9	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	59'13.993
10	14	大嶋和也	NTT Communications ROOKIE	59'17.381
11	36	中嶋一貴	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	59'22.829
12	3	山下健太	KONDO RACING	59'24.189
13	12	Tatiana Calderón	ThreeBond DragoCORSE	59'25.445
14	4	中山雄一	KONDO RACING	59'26.702
15	7	小高一斗	KCMG	59'28.422
16	15	大津弘樹	Red Bull MUGEN Team Goh	59'51.752
17	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	59'33.754
18	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	59'58.982



Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	岡山	鈴鹿
1	野尻智紀	23	23	3+20						
2	大湯 都史樹	17	17	2+15						
3	福住仁嶺	11	11	11						
4	平川亮	8	8	8						
5	笹原右京	9	9	3+6						
6	山本尚貴	5	5	5						
7	宮田莉朋	4	4	4						
8	園本雄資	3	3	3						
9	阪口晴南	2	2	2						
10	大嶋和也	1	1	1						
⋮										
12	Tatiana Calderon	0	0	0						

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	岡山	鈴鹿
1	TEAM MUGEN	20	20	20						
2	TCS NAKAJIMA RACING	20	20	20						
3	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	17	17	17						
4	carenex TEAM IMPUL	8	8	8						
5	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	4	4	4						
6	KCMG	3	3	3						
7	PMU/CERUMO・INGING	2	2	2						
8	NTT Communications ROOKIE	1	1	1						
⋮										
	ThreeBond Drago CORSE	0	0	0						

